

第9回「設楽ダム連続公開講座」運営チーム会議 会議録

開催日：平成24年11月23日（金・祝）

場 所：蒲郡市勤労福祉会館3階大研修室

（戸田土地水資源課長）

それでは、定刻になりましたので、只今から第9回設楽ダム連続公開講座運営チーム会議を開催させていただきます。それでは、会議の取り回しにつきましては、運営チーム会議のリーダーであります戸田先生にお願いします。よろしくをお願いします。

（戸田リーダー）

みなさん、おはようございます。それでは、第9回設楽ダム連続公開講座運営チーム会議を始めさせていただきます。今日は午後第3回のセミナーがございます。時間が若干限られる所がございますが、議題が5点、そしてその他も入れて6点ありますので、順次ご議論いただいて、また会場の皆さんからもご意見をいただきたいと思っております。

資料につきましては、次第、出席者名簿、配席図、それから資料1から5まで、これが順次議題に対応しておりますが、もし不足がありましたら、手を挙げていただければ事務局の方で配布させていただきます。よろしいでしょうか。午後からのセミナーの準備ということもあって11時半を目処に運営チーム会議を実施させていただきたいと思っております。

それでは早速議題に入ってまいりたいと思っております。議題1、第8回運営チーム会議の確認ということですが、資料をご覧になっていただきたいです。資料1ですね。議論できたことと議論できなかったこととなっております。議論できたこと、ざっと思い出していくことも含めて見ていきたいと思っておりますが、前回、議論できたことということで、これにつきまして2点、この公開講座の要綱の改正ということで、10月の6日付けで「理解」という所を「共に考える」とその旨の修正がなされました。それから、質問シートと振り返りシートですが、これは後程の議論にもなろうかと思っておりますけれども、講座での利用方法等について、担当委員に一任ということで議論のやり方によっては使い方も異なるであろうということでした。それから第3回のセミナーについて、これは今日の午後でございますが、議題の3の方になっております。シートの使い方、それから発言、質問の項目ですね。ここのやり方の議論がございました。これは後程確認になると思っておりますので詳細は後程お願いしたいと思います。第4回のセミナーについてということで、これは小島顧問と私が担当であります。テーマについては、設楽ダムの投資効果ということですが、これも詳細がすでに今日配られておりますので、そちらで後程ご議論いただきたいと思います。第5回のセミナーについてというのは、次の確認事項でありました。担当は井上委員と富永委員であります。日程についてはこれからということになりまして、これについても今日の議題の5であります。

場所は東三河、テーマは河川環境ということで確認されております。それから、第10回運営チーム会議ということでございますが、日にちが何点か挙げられました。12月25日の午前というところで今のところ決まっているということです。これにつきましては、なかなか日程が合いにくいという委員もいらっしゃいますので、今日の議論の進捗の具合を見ながら、どう開催するかを考えていきたいと思っております。それから、議論できなかったこととして、第3回セミナーでの託児の実施ということがございました。以上で、前回の運営チーム会議の確認をさせていただきたいと思っております。これについて何か、各委員から補足ありますか。はい、どうぞ。

(蔵治委員)

2点ありますが、まず、簡単なことなんですけども、1行目の要項の改正の「要項」という字が違うようです。それともう1点は、第5回のセミナーについては議論できなかったこととして、富永先生がご欠席されていたということもあって、流水の正常な機能の維持という観点をこのセミナーに盛り込むのか盛り込まないのかと、もし盛り込まないなら、それを別途開催するのかといったことがまだ議論できていないと認識しております。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。1点目の要項については、これは字間違いですので、これは修正をお願いします。それから、2点目の流水の正常化をどう扱うかについては、多分、今日の議題5の方で議論されるんだと思われませんが、この資料修正で止めておいていただきたいと思います。よろしいでしょうか。この点について。他、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次の議題に移っていききたいと思っております。フロアの皆さんもよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

それでは、第2回の流域県民セミナーのまとめということでありますが、これは随時、進行しているということだと思っておりますが、進行状態を含めて、これは担当の富永先生からご報告をお願いします。

(富永委員)

前回、欠席いたしまして、申し訳ありませんでした。まず、第2回の質問シートに対する回答について、まだ、今回ご提示できていないんですが、まだたくさん質問があって、回答を作り終わっていない状況で、今回まだ間に合っておりません。質問シートの内容について、簡単にご紹介しますと、久保様への質問は全部で80件以上ありました。内容的には、ダムの検証とか治水計画、ダム計画、ダムの環境への影響、それから利水、流水の正常な機能の維持といったところがございました。今本様に関しても、90件以上100件近くの質問がありまして、内容的には、治水の考え方、ダムの治水機

能、操作方法、ダム堆砂、それから堤防について、壊れにくい堤防についての構造とかコストについて、その被害について、あるいは利水と流水の正常な機能の維持といったところから、あるいはもっと専門的な詳細な質問もありました。この第2回のテーマというのは、非常に重い内容だったということで、非常にたくさんの質問がありました。講師の方も回答されるのに非常に労力を要しておられると思います。久保様におかれましては、鋭意回答を作成いただきまして、もう少しお時間をいただきたいということでしたが、何とか12月上旬までには終わらせたいというふうに伺っております。今本様におかれましては、今回答中ということで、まだいつ頃というのはお聞きしておりません。振り返りシートにつきまして、まず、統計のグラフを見ていただきたいんですけど、資料の2ですね。円グラフがあるんですが、どこで開催するかというのいろいろな議論されていて、意見がありまして、なぜ名古屋でやるのかというのあったんですが、今回、名古屋開催ということで、やはり、尾張地域からの参加が大幅に増えているということで、やはり県民全体に広く知ってもらおうという意味では意義があるのかなと思います。また、年齢を見ますと、40代以上が3/4、60代、70代以上が多いという状況、これは1回目とあまり状況は変わっていません。また、理解度について、「大変深まった」、「かなり深まった」というのが半数近くになっていまして、ある程度、内容としては良かったのかなと思っています。一方で「あまり深まらなかった」、「全く深まらなかった」というのも2割程ありまして、すでによく知っている内容だったとか、ちょっと内容が難しかったという面もあったのかなと推察しています。それから、戻りまして、振り返りシートの資料2の最初のところから見てみますと、まず最初、セミナーの内容に関する意見というのがありまして、「難しい」という意見もあったんですが、「ある程度、論点が明確になった」という意見もいただいております。意義がある程度あったのかなと思います。それから2番目、セミナーの司会に関する意見がありまして、非常に原田さんの司会が良かったという意見がありまして、スムーズに場を盛り上げていくようなことで良かったのかなと思っています。それから、セミナーの開催場所についてですね、これも先程言いましたけど、設楽ダムを県民全体で考えていくというふうに企画しておりますので、名古屋地域の皆さんも参加しやすい名古屋での開催も考えていることと、また、セミナーのテーマによっては豊橋とか名古屋以外の開催場所も検討していきたいということです。それから、もうひとつ、セミナーへの参加者が偏っているということで、もっと幅広い層に参加していただきたいという意見がありました。これにつきましては、多くの県民の皆さんが参加できるように情報周知に努めていくしかないかなと思います。セミナーの運営について前回、会場からの意見を聞いてしまったのですが、これについてちょっと多くの批判がありまして、質問シートに答えていないのに会場から質問を聞くというようなことがありまして、これについては質問シートの質問が尽きたような場合に限るとか、あるいはセミナーのテーマによっては参加者の意見がより活発になるような進行方法というのも検討していきたいと思います。また、最後今後のセミナーのテーマに関しての要望というのをございまして、これについてはでき

るだけ今後のセミナーで取り上げていきたいと思います。まとめとして、以上のような内容です。

(戸田リーダー)

原田委員から一言、ございますか。

(原田委員)

はい、私ちょっと、「わたくし語的」でこれいいのかなと思いましたが、名前入れたから大丈夫ですか？記名させていただいて答えました。あと一個、答えそびれちゃったところがあるのを見つけました。今後のセミナーへの要望というところの2つ目が私への質問でしたので、この部分だけまた追加で書き込ませていただきますね。サイドイベントに関しても書いた方がいいですよ。またアップされると思います。

(戸田リーダー)

はい。資料としては、今質問シートと振り返りシートと2つございます、取りまとめについては。質問シートについては講演者のご回答中であるということで、久保講師については12月中旬ということでしょうか。中旬くらいを目処に。今本講師については今書いていただいているということで、まだ日時は明確には出ていないというような状況です。それから振り返りシートについて、ということで振り返りシートについても講師の回答というのが第1回ございましたが、今それは回答中の中に含まれています。事務局からの回答につきまして、これは運営チームからの回答ということになりますが、このような形で回答させていただいたと。特に原田委員のコーディネートについての色んなご意見もありました、そこは個人的なこととしてもご回答いただいたということでございます。他の委員からこれについて、はいどうぞ。

(蔵治委員)

今日配られた資料に運営チームの回答という欄がありまして、そこで原田委員の記名になっているものと、文責が不明瞭になっているものがある訳ですけれども、その中で私としてはこういう回答は不適切ではないかと思うのがまだ残っておりますが、どういうふうにこれを決めればいいのかということなんですけれども。空欄になっているところがまだ残っていると思いますが、それらはやはり何がしか、埋めた方がいいような気もしておるところです。

(戸田リーダー)

分かりました。一応、個人名が書かれているものについては個人ということで、それ以外は運営チームの共通認識という観点で書かれておりますので、ご意見があるところがあればその場で修正していけばと思います。

(蔵治委員)

それでは、1枚めくった2枚目の冒頭の、先ほど富永委員からも口頭でご説明があった件ですが、前回の運営チーム会議でも意見を申し述べましたけれども、会場からの質問は質問シートの質問が尽きた場合に限りいたいというふうにはここでは断言されてしまっておりますけれども、そのようなやり方は賛成できないというふうに申し上げております。それは何故かって言いますと、質問シートというものが、このセミナーをそもそも開催する趣旨から著しく外れているような質問シートというのも多数含まれているということで、そういう本来の開催趣旨から外れているような質問シートが仮に全部で100件あるとして、それらの質問シートを全部処理しなければならないというような制約を掛けられてしまうと、例えばディスカッションのコーディネートをする場合にですね、本来の趣旨から外れたことに時間を食われるという恐れもあるのではないかと考えますので、質問シートの質問が尽きた場合に限りというような強い事をここに書いて欲しくありません。やはり、これは前回の振り返りにもありましたように、基本的にはその質問シートの取り扱いというのは担当委員に一任するということが前回議論されていて、富永委員ご欠席の中で申し訳なかったんですけども、そこをちょっと変えてもらえないかなということ。もう一点あるのですが、その下に質問に対して当局者はキチンと回答して欲しいという質問があるんですけども。

(戸田リーダー)

どこですか。

(蔵治委員)

その1つ下の、今の私が言ったものの1つ下のものなんですけど、質問側のところに当局者がキチンと回答して欲しいとあるんですけども、当局者というのは恐らくこれは国側の立場でお話された方のことをイメージされて質問されていると思うんですけど、ちょっとこれに対して質問シートにできる限り回答しますというのはちょっと変ではないかというか、質問シートに関しては講師の方が回答できるものについては回答しますというふうにやっているとしますので、ちょっとそこら辺は直した方がいいのかなという気がします。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございました。富永先生からございますか。

(富永委員)

確かに、第1回目は確かにこの質問シートの内容も色々ありますので、こういう書き方は適切でないかと今は思いますが、修正したいと思っておりますがどういうふうにしたらい

いですかね。

(戸田リーダー)

何か蔵治先生、案ありますか。

(蔵治委員)

質問シートを出していない方に発言を求めるようなことはできるだけ避けたいとか、そういうことだと思うんですけども。基本的には会場からの質問は、やっぱり質問シートを出された方に求めるというのが順番的には先で、それよりも前に質問シートを出していない人が自己主張するような形で会場に振ってしまうというのは多分良くないことなので、そういうことはできるだけ避けるということは書いていいと思うんですけど、質問シートが全部尽きるまでひたすら質問シートを全部やり続けるというのはちょっと困る、ということなんですけど。

(富永委員)

それは確かにそうです。それでいいんですが、ただ質問シートを出した人が意見を述べるという、質問シートの内容による訳ですから、それもまたちょっとおかしなことになるだろうなど。ですから質問シートをできるだけ優先しますくらいにしておけばどうでしょう。

(戸田リーダー)

質問シート、はい小島先生。

(小島政策顧問)

出てくる意見、質問ですよ。質問が凄くたくさん出てくるという、本当に見て大変だと思えますよ。ちゃんと話の筋が、あるいは運営の筋が通るようなテーマで質問を選んで限られた時間でやっていくというのが一番いいことだと思います。というのはですね、僕は霞ヶ関の経験が長いんですけど、役人って何やってたかって消耗戦をやる訳ですよ。何かやろうというと500問くらい質問を出して、みんな答えさせようというね。何々省は500問出す、何々省は1,000問出すとかね、へトヘトにさせる訳ですよ。それで時間を使うんですね。そういうことはやめましょうよねという感じがするんですよ。とにかく厚い質問を出してですね、どうだ参ったか、これに答えられない限り次は無いぞということを霞ヶ関はやってるんですよ。あるいはやってたんですね、そういうことを。それは無意味なんですよ、凄く。これ消耗戦って言うんですけどね。だから、そういうセミナーというのは時間が限られていて、テーマが決まっている訳ですから、そういうテーマに沿ったものをチョイスをしてですね、限られた時間の中でのストーリーで分かるような、終わってみて、ストーリーがあって、今日はこれが分かっ

たというようなセミナーがいいんだというふうに思います。とにかく沢山出して消耗させてやるという役人のナレーションなんですよ。重箱の隅をつつく様な質問を全部書いているのはね。だからそういうのはここではやめたほうがいいと思いますね。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございます。

では、書き様、書き振りとして今2つあったと思いますが、シートを出した人を優先するというのが一点、それからテーマに沿ったものであるということが二点、だと思っ
んですが。まとめると、コーディネーターがテーマに沿い、質問シート提出者を優先して質問をしてもらいます。そのようなことでしょうか、ちょっと文章としてはもうちょっと練る必要があるかと思いますが。そのようなことでよろしいですか、はいどうぞ。

(原田委員)

確か前回の時にもう1つ出たのは、会場でやり取りしたのはアンケートじゃなくて、その場で出たことに対する議論は会場とやり取りになるので、ということでしたね、ちょっと上手に説明出来ていないですけど。なので、アンケートを無視した訳ではなくて、あくまで最後の会場からの声というのはそのディスカッションに対する質疑だったの、それもありませんってということで、幅を持たせましょうということになったと思います。

(戸田リーダー)

それについては、質問シートを出していない人も場合によっては当然あるという理解ですか。はいどうぞ。

(小島政策顧問)

事柄としてはですね、議論が発展をしていく。インタビューなんかもそうなんですけれども、予め用意したもの以外で答えが出て行って、そこから議論が発展するということがあると思うんですけれども、それは積極的な意義があると思うんです。課題は、よくあることなんですけど、一方的な意見開示で終わって繋がっていかないということなので、フロアからご発言される方も流れを判断をしていただきたいと。もし流れと違う格好で一方的に話をされて他の方が話をしたいのにその時間を奪ってしまうということがあれば、それは司会として制止をしていただいて、他の方が、限られた時間ですから、他の方の発言の時間を確保する。なかなか難しいんですけど、そういう運用をやっていたらありがたいですね。そういう遠慮もしないで原田さんやっていたらいいんじゃないかというふうに思ってますけど。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。文章自体は、案を作って回すということで。趣旨としては、次に発言される方もあるわけですね。シートを出していなくても。その趣旨に沿っていれば。そこを許容するかどうかということで、許容するとすれば、回答の文面ですが、提出者を優先するという範囲で止めることになろうかと思いますが、よろしいでしょうか。趣旨として。文章としては、また案にしてもう一回、回すということで。

(富永委員)

確かにこれは、回答がズレていると思います。これは、一端、撤回します。

(戸田リーダー)

先程、蔵治先生の案はよかったと思いますが、講師が何とおっしゃいましたか。

(蔵治委員)

講師が回答できると判断したものについて回答を。ちょっと、待ってください。これは運営に関する意見なので、なんと答えればいいのか。これは、当局者に対する要望なんですね。当局者に後程、回答するようにお願いして、回答があったものについては、ホームページ上で公開するとか、我々としては、そういう立場ですね。

(戸田リーダー)

お願いをするということですね。講師に。それでは、そういう趣旨ということでよろしいでしょうか。一字一句やっておりますと時間が尽きますから。それから、もう一つ回答していないところなのですが、これは、確か第1回目も特に回答ができないといえますか、範ちゅうから逸れている場合は回答していなかったように思います。恐らく、第1回のセミナーに対する意見というのは、「次回を楽しみにしています」と書いてありますが、ありがとうございますというような趣旨になるとと思いますが、そういうことで、もし、漏れがあれば、再度追記していただくようにと思いますが、どうでしょうか。全部、ここに出されたものについては書いておくことにしますか。

(蔵治委員)

個人的な意見ですけれども、空欄にしておくよりは、今後の運営に参考とさせていただきますとかを書いておいた方がいいのかなというくらいです。

(戸田リーダー)

今後の運営に関しての意見は、みんなそれになってしまうかもしれませんが、真摯に回答しているといえますか、みんな実際にちゃんと読んで考えたのですが、書けないところはあるといということで、そういうところは、そういった内容を追加するといことで

お願いします。それでは、本件については、よろしいでしょうか。

(原田委員)

丁寧にお答えするということになる、1 ページ目の下の部分ですが、ザックリとこんなふうにまとめていますけども、広報に関して。チラシを新しく作るようにしていますとか、そういったことを入れていった方がいいのかなと思いますので書き加えます。

(戸田リーダー)

はい、井上先生。

(井上委員)

今のところで、前回、広報については、むしろ提案があれば、事務局にお申し出下さいというようなことを書いたような気がして、そういう趣旨も書いていただくとよいと思います。

(戸田リーダー)

今出たところの内容について、今後参考にしていくというのは、今時点で言い切れないところもありますから、そういう内容と追記をして、もう一度、皆さんに回覧と言いますか、運営チームとして回答するという形にして、ホームページに発表するというふうにさせていただきたいと思います。

それでは、議題を進めたいと思いますが、次の議題3、第3回とよがわ流域県民セミナーの調整事項、これは、午後になります、調整すべき点等があればお願いしたいと思います。これは、蔵治委員と原田委員の方からお願いします。調整といえますか、セミナーについてということですね、調整するというだけでなく結構です。

(蔵治委員)

振り返りシートについては、公開するということが明記してあるのですがけれども、質問シートについては、まだ、第2回の質問シートの扱いもちよっと決めかねているようなところもあり、その点で悩むのは消耗しますので、今回第3回についての私の意見としては、やはり第1回と揃える形で、質問シートをその場でこなしたものは、それでいいとして、こなしきれなかった質問シートは講師の先生にお渡しして、ご回答したくないものは、別に回答しなくてもいいと。回答したいと思われるものだけ回答をいただいで、回答をいただいたものだけ後日ホームページに公開するというような扱いがいいのかなと思っております。それを口頭で、セミナーの冒頭に申し上げようかなと思っておりますが、いかがでしょうか。

(戸田リーダー)

いかがでしょうか。今のは取扱いの方針ですよ。ご意見いかがでしょうか。基本的には担当委員に一任ということになっておりますのでよいかと思いますが。

(蔵治委員)

やっぱり、本当に第1回、第2回の質問シートというのは、あまりに多量で、かつかなり攻撃的なところがありましたので、そういうもの全て公開する、回答するというようなことになると、まさに消耗戦というようなことになるのかなと思いますので、そこはやはり、そのくらいのところで妥協するというか、折り合いをつけていけばいいのかなと思うところです。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございます。それについては、セミナーの中で、冒頭、取扱いの方針について説明していただくということをお願いします。よろしいでしょうか。原田委員からはよろしいでしょうか。

(原田委員)

はい。

(戸田リーダー)

それでは、議題の2、3のところではフロアの方からご意見がございましたらいただきたいと思いますが、ございませんか。

はい、それでは、議題4、第4回とよがわ流域県民セミナー、これは次回ということではありますが、資料4ですね。これについては、小島先生からよろしくお願いします。

(小島政策顧問)

お手元に資料4とチラシがあります。チラシのキャッチフレーズが非常に分かりやすく、いいなと思っております。「設楽ダムのお金のお話し」こういうふうにありますね。分かりやすくいいのではないかと思います。固く言うと、投資と効果、財政と事業効果と漢字ばかりになってしまいますけども、これは、「設楽ダムへの投資と効果～愛知県財政とダム事業効果を考える」、普通の人は漢字が並んでいて、行くことはやめようかというところでね、「設楽ダムのお金のお話し」というところが大切なお話ですね。講師の方々もやわらかく話をしていただきたいと。普通の人があるように話をいただけるものすごくありがたいですね。だいたい専門用語で語っていると記号ばかりになってしまう。こういうイメージで進めていただくとありがたいですね。中身なんですけれども、まず、日時ですが、2月11日、月曜日、午後1時から午後4時30分まで、場所は愛知大学名古屋キャンパスということで、このチラシ

の後ろにありますけれども、名古屋駅からすごく近いところで、戸田先生にご尽力をいただきました。三河の方からわざわざ名古屋まで来ていただいて、またそこから延々と行くというのは非常に申し訳ないということで、駅の近くで開催をすることができるようになりました。非常に感謝しております。内容は2つですね。一人は、名古屋市立大学の森先生ですね。財政の話ということであります。これが講演の1です。5. 講演内容のところに書いてありますが、講演1「愛知県の財政構造とダム関連投資」ということであります。愛知県財政の全体の状況を知っていただくということで、愛知県財政の推移と現状、それから設楽ダム関連投資と愛知県の財政状況の変化という項目があります。3番目が愛知県における地域間財政再分配とありますが、これは愛知県全体で県のお金をどういう地域で使っているのかということと、東三河における大規模土木事業と愛知県の財政的再分配構造、限られたお金をどういうふうに使っているのかと、財政全般についてお話をいただくというのが講演の1です。講演の2は、「ダム投資と事業効果」ということで、法政大学の伊藤先生にお願いをしております。1番目がダムの計画から建設・竣工までの手続きということで、まず全体の手続きを説明していただいて、それから2番目にダムにはどんなお金が必要なのか、あるいは誰が負担することになっているのか、一般論ですね、全体のお話をいただきます。その上で、設楽ダムについては、今、どこの段階まで来ていて、いくらかかり、誰が負担するのかというのが3番目です。そして、設楽ダムの費用対効果というところをお話ししていただきたいと思います。国もですね、県もですね、昔の高度経済成長の時と違って、右肩上がりですでにどんどんお金が増えていく時代ではありませんし、借金ばかりが増えていく、国の場合はそうですね。県の場合も、国からいただくお金があるはずなんですけれども、それがいただけなくて県が起債をしないとイケない。そんなような状況になっていて、それもどんどん増えているというのが日本全体の財政状況であります。そういう中で、何にどういうふうに使っていくのかということは、事業を考える上で非常に重要なことでもあります。名古屋で行うということなんですけれども、名古屋の人たち、あるいは尾張の人たちがこれに関係ないということではなくてですね、お金が天から降ってくれば関係がないですけども、天から降ってこないんですね、お金は。ですから、何か事業をやるっていうのはお金が要るわけで、そのお金を税金から支出する場合は、税金を払っている人たちとのコミュニケーションが必要ということなんで、国のお金は日本国全体でありますけれども、愛知県が支払う分については、愛知県全体の方々の理解を得ながら進めていかないとイケないのではないかとこういうことで、設楽ダムのお金のお話ということが次のテーマであります。説明は以上であります。すごくこのキャッチフレーズに感動しています。

(戸田リーダー)

はい。ありがとうございます。難しい話をやわらかく包んでいただいたと思います。第4回についてはそのようなことですね、2月11日ということであります。時期がまだちょっと時間が空いておりますので、サイドイベントについては、まだ今のところ

ろ調整しているというところによろしいでしょうか。はい。もしあれば。

(原田委員)

サイドイベントの方は、今回は三河万歳を披露していただこうかなと思っているんですね。会場の問題などありますので、今日はそれを少しこの場で詰めれたらいいのかなと思いますけども。音が出るということですね。食べ物ではなく。今回は。はい。いかがでしょうか。

(戸田リーダー)

大学ですが、実は1階上で模試をやってみて、そういう状況があります。ただ、そう大きな音でなければ、万歳であれば、これがロックのコンサートになるとちょっと問題ですが、そうでなければ問題ないと思いますが。

(原田委員)

もし今日皆さんにOKですよということでしたら、このチラシの方に、「三河万歳」というふうに入れさせていただこうかな、と思います。こちらも協力としてNPOチームぐるぐるさんの方で支援をしていただくんですけども、このとき、出演者の方々にはちょっとお金もかかるであろうですから、私たちが気持ちを少しそこで加えておけばいいのかなと思いますけど。

(戸田リーダー)

寄付ですか。

(原田委員)

寄付。はい。

(戸田リーダー)

じゃあ提案ということで。どうでしょうか、ご意見。よろしいでしょうか。はい、小島さん。

(小島政策顧問)

結構です。はい。

(戸田リーダー)

じゃあ、そういう方針で。内容についてはもっと詳細に、多分空間の問題とかあるかもしれないから、そのやり方については、ちょっと詰めていただくということでお願いします。

(原田委員)

お願いします。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございました。第4回については以上のようなことでよろしいでしょうか。もし、これについても何かフロアからご意見あればいただきたいと思いますが、はい、どうぞ。

(小島政策顧問)

講演内容、講演地には、現在のところの項目で、先生方がいろんなデータを見ながら作っていかれますので、変更はありえます。まだ時間がありますので、ということをおし上げておきたいと思います。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。データは今、各先生が分析されておるところですので、それによって変わることもあるということでもあります。

それでは、次の議題に進みたいと思いますが、これは前回の持ち越しの議題であります。すいません、1点忘れました。質問シートがついております。第4回セミナーの質問シートであります。これにつきましては、第1回ないしは今日の第3回と同じような形態に今なっております。取り扱いについては、今日の結果も踏まえてということになるかと思いますが、そのような提案でご理解いただければと思います。

それでは、次の講座、第5回セミナーについてということで、これについて資料が、5が出ておりますので、富永先生ですか、ご説明をお願いいたします。

(富永委員)

はい、では第5回の講座計画案です。テーマは「河川環境」というテーマが与えられていましたので、ここでは「ダムが河川環境に及ぼす影響」というふうにさせていただきました。豊川は、自然豊かな清流で、天然記念物のネコギギなど貴重な魚類が生息するというのと、鮎などの水産資源も豊富です。ここにダムができた場合に、ダムに水没する上流域はもとより、ダム下流域にも何らかの影響をもたらすと考えられます。このようなダムが河川環境に及ぼす影響について、水生生物の生息環境の面と、川の土砂輸送ですね、この面から考えていきたいと思いますが、これらにダムがどのような影響を与えて、またその影響をどのように回避あるいは軽減できるのかといった点が議論になるかと思いますが、それで、講師1と書いてあるところ、漢字が間違えてまして、ダムと豊川の「水制」生物、「せい」の字が違っておりまして「水生生物生息環境について」、講師の2が「ダムと土砂環境について」ということで考えております。先ほど、蔵治委

員の方からありましたが、流水機能の正常な維持というテーマをどうするのかということでしたが、この点につきましては、利水の面との兼ね合いもありますので、やはり水を使っている利水の面、立場からの意見ということと、またそれによって供給水域での漁業をやっている方、そういったところでもう1回テーマを組めたらと考えております。ここでは、河川環境という意味合いでは「水の量ってというのが必要だよ」あるいは「土砂の供給が必要だ」ってことでは、流水の正常な機能の維持という意味で関係はしますけれども、やはり、利水を抜きには事が語れないということで、また別の機会で行いたいと思います。日時ですけれども、来年度の4月下旬から5月中旬にかけてということで、今日、ある程度の日程を決めていただければと思います。場所については東三河ということで決まっているんですが、これもある程度決めていただきたいというふうに思います。以上です。

(戸田リーダー)

はい。3点ですね。論点としての環境と流水の正常化、そのところが1点。これがテーマです。それから、2点は時期と、それから、3点は場所ということになるかと思いますが。どうでしょうか。初めの問題からよろしいでしょうか。テーマの取扱いの仕方の問題について。これは前回からの持ち越しでもあります。ご意見いただきたいと思いますが。どうでしょうか。蔵治先生、はい。

(蔵治委員)

設楽ダムの河川環境への影響というのは、環境影響評価というものがありますけれども、その影響評価においては、豊川の全線ではなくて一部の区間に対してやられたと思いますが、このセミナーでは、基本的には河口域までを取り扱う、全川を取り扱うという理解でよろしいでしょうか。

(富永委員)

それは、講師の方によると思うんです。例えば、今日は三河湾で、環境とは違うかもしれないませんが、ここでは全域扱うかということまでは確約できないですけれども。上流域から中流域、河口付近という所は入るかどうかは、講師によるところです。

(蔵治委員)

「講師による」と言われますが、我々がどういうセミナーを開催するかを決めて、それに適任な講師を選ぶというのが順番だと思うんですけど。鮎というのは、基本的には回遊性の魚類ですから全線に関係すると思いますが、何だろう、「全線について私は話できません」とかいうような講師の方なのか、それとも、それを含めて話をしてもらえる方なのか、どういう方を探すのかということなんですが。

(富永委員)

必ずしも全線をやることはないのかなと思いますけども。そういう意味で、話としてはできるかもしれませんが、本当に専門的に分かっておられるかどうかという所がありますね、下流域は。そこまで要求するっていうか、それだけ幅広い範囲をカバーできるかっていうのは少し難しい面があると思うので。

(井上委員)

環境影響評価を行っている時には「ここまで」というのが決められて、そこをされているんですが、そういったことは、このセミナーでは気にしないというのが前提で、その先生がやられている話で話をするというようなところですか。こちらで「ここまでの話をして下さい」ということは言わないということです。

(蔵治委員)

わかりました。私が言いたかったことは、講師の先生はもちろん講師の先生の話す範囲で話されるということでもいいと思うんですけど、その後、例えばディスカッションとかがあったときに、そのディスカッションの中で、どこまで議論していくかというところだと思うんですが、それを含めてのセミナーの開催計画だと思ってますけれども、その計画の中では基本的には、今井上先生がおっしゃるように、どこまでというような区切りを置く必要はないという理解でよろしいですね。それだったらいいです。

(原田委員)

いいですか。素人意見ですよ。私がもし「河川環境に及ぼす影響」って聞いたら、その一部のことを言われる先生ではなくて、ここの川の全体の影響だというふうに、ぱっと聞くとおっしゃるので、それが私たちみたいな参加者がいるとしたら知りたいことになるのかなって思います。それが影響だから。本当は川から海に繋がるんでしょうけれど、海の話は今回やるとして、そこだけはちょっと分けますけれども、でも、少なくとも川の上流域、上流域から中流域、下流域にかけてのその影響っていうのが、一部の中での影響っていうことが、私ちょっとどういうふうか分からないので、すいません、素人質問ですけど。全体が見たいと思っております。

(戸田リーダー)

はい、富永先生、どうでしょう。

(富永委員)

難しいですけど。河川環境という意味ではやはり河川の自然環境に影響を与えるかと言う一般的な話ということでお願いする訳で、一部ここだけという話ではないと思います。そういう考え方ではないと思います。

(井上委員)

もう1点言いますと、これ内容ですよ。環境という広いですよ。その魚類とか自然環境から始まって、生物と言ったら魚類の前に底生生物、その前から始まって食物連鎖、それから河川敷の植生とか、ものすごく幅が広くて、申し訳ないんですけども、我々大学の教員とか研究者というのは、それを全部網羅している人はなかなかいないんですよ。その1つだけしかやっていないとか、こちらのことは大体専門として自分で言えるんですけども、こちらのことはしてないから人が言っていることを借りてきてしか話ができないとか、自分の言葉で言えない所があって、多分これをやる先生も環境を広く一般にと言われるとちょっと。広く一般的にやっている人は、逆に言うと浅くなってしまふ所もあって、中々、どちらをバランス取ったらいいかと我々環境をやっている研究者の悩みです。自分がやっている所だけ良くすれば良くなるということが判りながら、環境全般を良くするという環境は何だろうという所でかなり悩みがありながらやっている所があって、この講師の先生方にもそうですが、難しいことを如何に理解してもらうかということを我々が色んな所で情報発信していかなければいけないことになっていると思います。

(原田委員)

いいこと聞いちゃいました。結局このセミナーのいい所は、お金の時もそうですけども、それぞれ利益でお話をされて、お金の問題も全体像を捉えましょという売りですよ。今度、第4回のセミナーも。なので、もしかしたら次の5回も細分化されている先生方が、もしかしたら先生方自体も、井上先生がおっしゃったように悩まれているかも知れない局所的なご研究だけでも、じゃあ講師の方2名では足りないかもしれないですね。上流域、中流域、下流域とって、それぞれの先生が繋がることのなかった場になればいいのかなと思って、そうしたら、私すごく興味を持ちました。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。多分、全部取り上げられると思うんですが、どこかフォーカスすると思うんですね。でも、質問は出ますよね。それは質問として答えられるものと答えられないもの出ますけれども、全体の構造というのは段々それで明らかになってくるというアプローチではないかなというふうに思うんですが。

(富永委員)

そういった点は、こちらの要望としてお伝えして、できるだけそういう話を踏まえて、人から借りた話になるかも知れないけどそういうふうになりたい。

(原田委員)

借りた話でなくていいと思いますけど。先方の先生の得意分野で来ていただいて、ことごとおっしゃる先生もいれば、私たちは違うところを研究していますという先生もいらっしゃればいい。もしかしたら、それは2人では少なく、長い川の全体を捉えるには、3人でも4人でも講師の先生方をちょっと時間が足りなくなりそうですけど、そんな思いもしました。ちょっと物理的に時間が…。3人がいいんじゃないですか。講師の先生。

(戸田リーダー)

はい、小島先生。

(小島政策顧問)

またどこかでやらなきゃいけないでしょう。流水の正常な機能ですか、平たく考えると、川というのは、上流から下流に流れていて、日照りの時は水が枯れて、雨が沢山降ると水が沢山流れる。これが正常なんでしょう、きっと。無理矢理日照りの時も水を流したり、洪水の時に水を減らしたり、これが正常かとか、そういう哲学的な話をすると一体何が正常なんですかね。生き物も元々は日照りの時には水が枯れ、洪水の時には雨が降れば流れる中で、生きていますよというふうに普通の人は考えるかもしれないですね。ところが、今、豊川の中で頭首工で水を取っちゃうから、どこかで断流ができる。造って水が流れないという所だから、もう1回流さないからまた造るというのは正常なのかとかです。そういうのが全体の議論なのか。そういう中で一つ一つ特定の生き物の先生とか何々の専門家とか、そういう方がいらっしゃるんだけど。そもそもその考え方ということを書いていただいて、その中で議論を展開していただくと物事の始まりというのが分かるような気がします。そんな先生いらっしゃらないですかね。

(戸田リーダー)

それはそちらお2人で。

(井上委員)

それで利水と流水の正常化というのを一緒にすればいいかなと思いました。人間が手を加えていない河川に対して、それにどういう手を加えて利用してきたかを、歴史もありますけども、その中で豊川をどうするのかというので、その前の何もない時が前提として、どういう将来像として豊川あるいは豊川流域の人が豊川に対して、どうやって水を使って、上流域の人はどういう水の使い方、下流域の人はどういう水の使い方をするという理想論がこのセミナーを通じて皆様の中で考えが浮き上がってきて、そのためには今ある頭首工が要らないと言うんだとしたら、それを無くするか、豊川のダムはどうするんだとかを含めて何らかの意見が、集約は多分難しいが、大多数の意見がこういうこ

とかなというのが分かってくるようにサイクルになれば、私はいいかなと思っています。

(富永委員)

個々の話を聞いて、環境に関してこんな影響があると、それを一遍に包括してやる必要も確かにないんじゃないかと、そこで問題点が浮き上がってくる。今度はこういう人の話が聞きたい。一遍にこれをやる必要はないんじゃないか。段々と分かってくるというのがこのセミナーのやり方でもいいんじゃないかと思う。

(蔵治委員)

時間も無さそうなんですけども、流水の正常な機能の維持については、今、小島先生もおっしゃったように、やはりそういう議論は不可欠で何が正常なのかとか、何が機能なのかとかという議論は深める必要があって、今、利水という話が出てるんですけど、やはり利水とは明確に違う部分があると思うんですね。利水というのは基本的には、水利権を水が欲しいという人に与えるためにあるので、それは農業者であるのか、工業用水なのか、水道用水なのかという話で、それはもう完全に人間が人間の為に河川の流水を収奪するという、そのために受益者も負担をするというのが利水だと思います。けども、その流水の正常な機能の維持というのはそれとはちょっと違う目的としてダムに付与されているので、私はむしろ、もちろん関係はないとは言わないですけども、別の回のセミナーで扱うようなテーマかなと思います。今日はそのことを深く議論するような時間は無いと思いますけど、この河川環境に及ぼす影響については、私の希望としては、一番河川環境をよく知っている人は誰かということが大事で、それはいわゆる研究室に閉じこもっている研究者よりも、むしろ前回も意見があったように、例えば漁業協同組合の方とかの意見というのも非常に大事な部分だろうと思うので、そういうものを盛り込んでいただければいいかなというのが意見です。

(戸田リーダー)

どうでしょうか。これについては。

(富永委員)

別の機会にそういうのをやろうと、どうかなと思っています。先程、流水の正常な機能の維持という言葉だけがちょっと一人歩きしているんですけど、ただ水が足りない、水を使い過ぎているという状況で、それで何とかしたいという話で関係は当然あるんじゃないか。言葉でそう言っているんですけど。それはそれでいいのかという話をするとまた環境面でどうか、哲学的な話になってくることなので、それだけでやるのか、やはり、利水の方だけでやるというよりはそれによってどういうことが起こっているのかというのを同時にやった方がいいのかなというふうに考えた訳です。そういう意味でまた考えたいと思うんですけど、ここでも漁協とかそういう人がいた方がいいと思うんであ

れば、また考えたいと思います。

(戸田リーダー)

今日これで5回の結論を全部出してしまうかどうかというのがありますが、まだこれから行っていくもの、6回以降のものが幾つかあります。大きく残っている、これは第2回のセミナー以降でもそうですが、安全防災の議論も残っています。堤防をどうするかというの残っていますし、それから利水そのものですね。農業と利水という大項目として残っているものもあります。提案になりますが、それをまずやって、今の流水のところをもう1回そこに補足できるのか、補足できないのであれば、もう1回新たにそのところをピックアップしてやるというフレームの枠をちょっと詰めていくようなことがどうかと思います。いかがでしょうか。やり方として。今の利水のところでもう1回この議論を入れるのか入らないのかということを含めて議論させていただければというふうに思いますが。よろしいでしょうか。

もう1つ日時を決めなきゃならない。急に現実的に、今のも現実的な話ですが、直近の話になってしまいますが、場所と日時で、まず、もちろん決められるか決められないかということもあります。概ね4月の下旬から5月の中旬、中旬ということで、逆に言いますと、皆さん忙しいので、今入れとけば、入るんじゃないかということもあります。いかがでしょうか。これは手帳見ていただいた方が早いと思いますが。どうしますか、次回にしますか。

(富永委員)

なるべく早く決めていただいたほうが。

(戸田リーダー)

そうですね、講師の都合があらうかと思しますので。

(井上委員)

その前に講師はこの形の講演を頼んでよろしいということでしょうか。

(戸田リーダー)

はい、そうですね。流水の機能というのは持ち越しになるのですが、環境という面で捉えて、それは全域を捉えてという前提ですよ。で、もちろん専門性がでてくると。それについて課題が当然残るという構造になりますが、まずこれで第5回の構成を、多分講師は描いてこういう話しをしていると思うのですがどうでしょうか。いかがでしょうか。その了承が得られるかどうかということがひとつですね。

(事務局)

先回の会議で、小島顧問からお話のありました広報のお話でございますけども、4月下旬から5月中旬ということになると、広報あいちにいつ載せるのだとかということについて、4月7日が広報あいちになりますので、4月の早い段階ということになりますと、ちょっと広報期間が短いかなと思います。記者発表も次年度予算が決まってからとなりますので、3月下旬という形になります。今回、原田委員に作っていただいたようなチラシは事前には難しいです。日にちの入ったものを2月とか3月の頭に出すのは難しいという形になります。その点を踏まえて、4月7日の広報あいちに載せた時に3週間くらいは募集期間を取った方がいいのではということで、4月の下旬ということをお願いしたいと思います。

(戸田リーダー)

日程はちょっと後ですね。まずテーマの議論をしているので。

(原田委員)

チラシのことでごめんなさい。2月11日に出すのが難しいということですね。

(事務局)

日程とかそういったものが入ってなければ、第5回はこのようにやりますよという程度なら問題無いと思いますが、いつやりますとか、そういうことはその段階では難しいのかなと思います。

(井上委員)

時間が無いので、たとえば日程を入れて、例えば予算が通れば行きますというのも無理なんですか。

(事務局)

このようなもので、公式な記者発表はしてないです。義務的なものは広報する場合がありますが、予算を通りますという前提で記者発表することは。

(井上委員)

別に記者発表する必要はないのですが、チラシにそのようなことを入れて2月に配ることは無理なんですか。

(事務局)

それは止めてくださいとしか言えません。広報あいちとか載せる場合は記者発表を前提といたしますので、2月の段階で来年度の予定のものをいつやりますということは、

私どもの方からは出来ないとなります。

(戸田リーダー)

ちょっと今はテーマの話をしているので、ちょっと待ってくださいね。まずテーマが決まらなないと成立しないので、テーマはいかがですか。これで。それかもう1回持ち越しますか。多分これでいくと、テーマはこれで人も大体の想定している人になろうかと思えますが。

(小島政策顧問)

2人にするか、付け加えたいかということですよ。このテーマで行くのですけども、先ほどの話はもう1人付け加えたほうがいいのではないかと、ですよ。ただ2人なのか3人なのかということで、この講師1講師2について異議がある訳ではないですよ。

(原田委員)

全体像を見るために、3名の先生方にお言葉を頂くということはバラエティに富んでいいかなと思います。井上先生がおっしゃったようにすごく専門家の方々が細分化されたとご研究をされていて、その研究もむちゃむちゃ興味がありますから、それを余すことなく発揮してもらいつつ、バランスを取るためにその先生が無理にバランスを取ることなく、先生お一人一人の主張をしていただくのであれば、偏らないように3人いらしたらいいいのではないかなと思います。その細分化の意味が違っているといけないのでご指摘ください。

(富永委員)

そういう意見もあるのですけども、やはり2人でも時間が足りないような状況で、ちょっとしか話が聞けない。それよりも2人でじっくりやった方がいいのでは。

(原田委員)

多分その細分化となると、専門的な方々が聞いていたら十分かもしれませんが、40分が長いかもしれませんね。専門的なことをコアに40分説明されると、それを分かるように薄っぺらいかもしれないのですが、一般の方に伝わる言葉でやったださるよように段取りできるといいですよ。

(富永委員)

そんな専門的な話ばかりではないので、そんな話をする事は無いです。

(蔵治委員)

先程私は意見を申しましたけども、どうも2人の担当委員の人は違ふところに行っ

てるようなのですが、それは担当委員の方々が決めることなので尊重したいと思いますが、私の意見はこの5回を踏まえて、後に流水の正常な機能の維持も含めた別の回で反映させていきたいなと思っております。ですので、これで異論はありません。

(原田委員)

私がまたチラシの文言を作っちゃいますので、テーマのところを作っていただけるとそれをここに纏めて、でも先生に毎回確認していただいています。この方向性が間違っていないかどうか。文章を分かりやすくしたつもりズレているといけないので。

(戸田リーダー)

では、概ねこれで第5回は方向性は合意されたと思います。あと、日時の問題が出てましたがこれはどういうふうに考えますか。

(小島政策顧問)

また詳細を調べて判断しないといけないのですが、例えば民間の方々がですね、イベントやるときに後援を申請しますよね。例えば愛知県の後援とか、僕が居たところだと環境省の後援になりますが、手続きに時間が掛かるんですよ。決裁が回っている間。でも早く広報したい、どうするかと言えば(申請中)ですよ。後援文部科学省、後援農水省(申請中)なんですよ。やはりこれは、イベントをやって早く周知したいのと、後援がどうかまだ手続き中ですよという形でやるのはそういうことですね。それから4月の最初にやる会議もあるのですがね。予算が通らなかつたらしょうがないわけで、骨格予算しか通らない場合はできないわけですから、それは仕方が無いことなんでしょうけども、一応予算が通るけれどもまったく予算の如何に関わらずやるなんてことはありえないことで、予算が通った場合にこれは履行する。これは当たり前のことです。予算が遅れば骨格しかできないですからね、予算の執行は。議会、国で言えば国会がその予算を通してないのに何をしてるんだということなんでしょうけども、それは当たり前のことだから、例えば4月の最初にやらなければいけないこと、イベントなんかやらなければいけないこと、というのはやるんじゃないですかね。国際会議とか決まっちゃってると予算が通らないとできないのですが、準備にすごく時間が掛かることはやっぱり事前にやりますよね。

(戸田リーダー)

時間がちょっと限られてきて、12月25日に引き続きこれをやるかどうか。

(富永委員)

今の話は5月にやるのだったら何の問題もないのでは。それを決めればいいのですよね。

(戸田リーダー)

2月11日にチラシを配れるかどうかということをお心配しているのですね。書き方を工夫して、ちょっとこれは永遠に続きますのでこの話をしていると。では、よろしいですね。これでやると。日にちを決めてくださいですね。4月の中下旬ということで、20日とか27日とか、連休は外した方がいいですね。5月11日、土曜日で選んでますが、18日、できれば5月の方がいいというわけですね。今のことを考えると5月11日、18日。えらい先の話ですが。

(原田委員)

5月は第2がダメなので11日はダメです。

(戸田リーダー)

では18日は大丈夫ですか。単日ではしんどいですか。では、18日、25日。

(原田委員)

25日はダメです。春のイベントシーズンですので。

(戸田リーダー)

6月に入っちゃうとちょっとあれですね。半年先になってしまうので。4月はどうでしょう。

(原田委員)

27日はゴールデンウィークに入ってしまうので。

(戸田リーダー)

20日なら大丈夫ですか。

(富永委員)

広報が苦しいのでは。

(事務局)

多分、周知期間はないと思います。

(戸田リーダー)

じゃあ18日。19日は僕がだめ。26日はどうですか。じゃあ18日と26日、できれば18日でお願いしたいと思いますが。

(富永委員)

12日は。

(戸田リーダー)

12日はちょっと私だめなので。18日と26日、できれば18日でお願いしたいということで、半年先の話になってしまいますが。じゃあ、ここまででよろしいでしょうか。場所は東三河、どこで。だけどそれは会場の都合があるので、概ねのエリアだけご希望があれば。

(井上委員)

今回、河川のことなので、2つ考え方があって、新城市とか設楽町で行うという考え方と、それを知ってもらうために下流で水を使っている田原市でやるという考え方と。私は利水とかそういうことについて田原市でやって、農業については新城でやればいかとは思ったんですが。それも両方意見があるので、どちらの付近でやるのか、下流域でやる手もあるということで決めていただければ。

(小島政策顧問)

場所は両方ともあるのですか。

(井上委員)

多分あると思います。まだ先なんで、探してみても、探せなかったらまた…。

(戸田リーダー)

新城の方がいいんじゃないかと思いますがね、今回蒲郡で、湾側でやっていますから。山側の方がいいんじゃないかと思いますが。施設があるかどうかの問題は当然あるかと思いますが。

(原田委員)

そうしますとサイドイベントもそちら側の自然の食材なんかも取り入れることができ、今回もアンケートにありましたけれども、川魚なんかもどうですかとありましたけれど、いいかなと思います。

(戸田リーダー)

じゃあ新城という方向で、また事務局で探していただきたいと思います。

一応、これで全部の議題が終わりました、よろしいでしょうか。それで12月25日をどうするかというのがあるんですが、次の次が。

(蔵治委員)

ちょっとですね、前に戻って恐縮なんですけど、結構急を要することだと思うんですが、この今いただいた封筒の中に第3回、今日の午後のことなんですけど、この封筒の中に今日の講座の趣旨を説明した資料が何も入っていないということが、さっき気が付いたんですけども。この中に緑色のチラシを全部入れていただかないと今日の講座の趣旨が来ていただいた方に伝わらないんですが。これは次第しか入っていないし、今日の趣旨説明というのは、この緑色のチラシが書いてあるこの文章が全員に配布される必要がありますので、今から至急ですね、全ての封筒に入れることをお願いしたいと思います。そうしていただかないと今日の講座の趣旨が来た方に伝わらない、説明ができませんので。気が付くのが遅れてすみませんでした。

(事務局)

それはやれるかどうか、ちょっとここではお答えができませんので、やれたらということではよろしいでしょうか。

(蔵治委員)

今日の趣旨が配布資料として無いのは非常に困ります。

(事務局)

分かりました。白黒で直ぐに配ります。

(蔵治委員)

もちろん白黒でいいです。

(戸田リーダー)

白黒でいいです、趣旨が伝わればいいですから。じゃあそういうことで、それは至急対応をお願いします。他よろしいでしょうか。

それで12月25日をどうするかということで、次の次が6月、半年先になってしまいますので2月11日でも良いかなという感じもしますが、それについて各委員いかがでしょうか。ただその場合2月11日に第5回を発表とすると、そのメンバー、講師について、またネットで行うということになります。それでいくか、もう1回25日にその案件で集まっていたか。いかがでしょうか、ご意見出していただけたら。

(蔵治委員)

今日のお話ではすでにもう。私は聞いてないですけど、ここで名前を言っていただいてもいいぐらいの状況のようにも見受けられますので、いっそ名前を言っていただいて。

(戸田リーダー)

名前を言っていたいで。

(富永委員、井上委員)

それはまだ確定していません。日程が合わないかもしれませんから。

(戸田リーダー)

日程か、そのところはメールのやりとりでよろしいですか。どうしますか。

(井上委員)

毎回ここで、こういう方ということでした承を得て、それから日程調整をするのであって、それから講師の名前を出すという、第4回はそういう手続きだった。

(戸田リーダー)

第4回はその時間が無かったのでメールでやったんですね。メールでよろしいでしょうか。

(蔵治委員)

でも、その第3回の取りまとめというのも実はありますし、第2回の質問シートの扱いも未だ議論ができていないというのも事実なんで、私はやった方がいいような気がしておりますが。

(小島政策顧問)

年末です。皆さんがお決めになれば、そのようにいたしますが。

(井上委員)

12月、まだ予算が通っていないので先のことは言えないでしょうけれども、来年度以降が続くということで前提としてやっているんですけども。そうすると2月に第5回まで決まるんですが、第6回以降をどうするかを2月に話をしているのは、少し遅いかなという気がしますので、12月25日にやらなくても1月中に1回開くか2月までにもう1回開いたほうが良いと思います。

(戸田リーダー)

1月の再調整、すみません、もう時間が非常に厳しいと思いますが、でもやっとなないとフロアの皆さん分からないと思うので。1月の調整を。これは運営チーム会議ですからウイークデイです。そうすると1月の11日、それは合わなかったんですね。そ

うすると次の週、これは2月11日とは切り離して議論できればと思いますが。14日の週いかがでしょうか、センター試験は当たらなかったですか。19日20日を避けて前の方がいいですか。15日はだめ。17日、だめ。16日。

(事務局)

すみません、ちょっとよろしいでしょうか。私ども県議会の関係がございますので、1月11日と15日と16日はちょっと私ども難しいと思うのですが。

(戸田リーダー)

17日。次の週ですか、21日の週。18日はいいですか、午前なら。次の週。(委員から「18日で大丈夫。」との声) 申し訳ないけど午前中でよろしいですか、私午後に入っているの。じゃあ、次回運営チーム会議は1月18日の午前中ということで、場所は、また基本的には東三河県庁ということでお探してください。

フロアから意見をいただく時間が無くて申し訳ないですが、無くなりました。是非言いたいという方がおられれば1人2人だけ、申し訳ないですが手短かにお願いします。

(伊奈氏)

第5回のダムが河川環境に及ぼす影響ということで非常にいいテーマだと思います。是非お願いしたいと思いますが、河川環境に及ぼす影響が大きいか小さいかという事が私たちは関心がある訳です。国土交通省は軽微だという判断をしてエリアを非常に狭くしておる訳ですね。私たちは非常に大きいと思っておりませんが、そののところ、本当に軽微なのか非常に影響が大きいのかという事を、流水の正常な維持機能を別にしといて是非このところを取り上げていただきたいなと思います。

それから、豊川で言うと上流が二つに分かれてまして、寒狭川と宇連川と、宇連川の方はダムができておるんですね。できておることによって既に河川環境に影響がでておる訳です。その辺のところを一つ取り上げていただいて、宇連川のように全部魚が死んじゃうよと。何でか、水量が平準化されちゃったから、水温が下がったから、濁りがひどいから、それで魚が棲めなくなっちゃった。そういう例がある訳ですよ。宇連川の方の漁協と組合長は非常に良く分かっていますので、過去こうだったけどこうなったという話も是非どっかで取り上げていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

(戸田リーダー)

はいありがとうございます。申し訳ありません手短かにお願いしたいと思います。

(市野氏)

今伊奈さんがおっしゃったんですが、豊川総合用水事業で宇連川筋が非常に大きく改変されておりまして、河川生態系の影響というのが、そこにもう豊川水系でもろに出て

おります。そのところの関係者で非常に良く知っている方が宇連川漁協などみえますので、第5回のところで講師でなくても何らかの形で発言していただけるといいかなと思っております。そういう関係で会場の方をですね、田原というよりは新城辺りで工夫していただいた方がいいではないかと思っております。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございました。時間がちょっと延びてしましまして申し訳ありません。この後セミナーの準備に入らなければならないので、本来ですともう一度振り返ってまとめをしたいんですが、大体議論されたということで終わらしていただきたいと思えます。各委員よろしいでしょうか。

じゃあ、これで第9回運営チーム会議の議論を締めさせていただきます。どうも会場の皆さんも最後時間切れで申し訳ありませんが、どうもありがとうございました。